

### 【様式 3 - 3】

## 大阪市立南百済小学校 平成 27 年度 校長経営戦略予算 【加算配付】 配付申請書 (補足説明資料)

南百済小学校の校名は、東アジアとの交易で栄えた太古の時代に由来し、昨年、創立 140 年目を迎えた歴史と伝統を誇る学校である。地域の方々は、「南百済」の名に誇りを持ち、本校は「南百(なんびやく (小))」の愛称で親しまれ、地域との連携は大阪随一と自負している。

また、校歌の 1 番には「世界に巣立とう」、2 番には「世界を駆けよう」という歌詞があり、地域にはグローバルな気風が根づいている。そこで、地域の思いや願いに応える学校運営を推進していくためには、「世界に通用する人材の育成」こそが、学校の使命である。

運営に関する計画では、「世界に通用する人材育成」を推進するために、理数科の学力向上が不可欠と考え、3 年前から「理科教育の充実」を取り組んでいる。また、今年度からは新たに「算数」を研究教科として、授業の I C T 化等の授業改善に取り組んでいく。

### 1. 理科教育の充実

本校では、4 ~ 6 年生の理科の授業を専科とし、理科室での実験・観察を中心とした授業づくりを行っている。昨年度の校長戦略予算では、60 インチ大型電子黒板や小型耕耘機を購入し、授業の I C T 化や学習園の有効活用に努めた。今年度は、理科教育の I C T 化をさらに推進するため、理科室専用タブレットパソコンと理科室管理用パソコンを購入したい。

- (1) 大阪市では、今年度の 1 2 月に各校に 40 台のタブレット端末が配置される。本校では、全学年・全教科にわたって活用する予定である。しかし、4 年生から 6 年生の児童が理科室を各学級週 3 時間の学習で、常時、使用している状態なので、理科室専用タブレットパソコンが別途必要である。タブレットパソコンは、班単位で児童に持たせ実験・観察の学習に活用する。さらに電子黒板とつなげば、実験や観察での「気づき」を学級全体で共有でき、これまでの取組みをさらに前進させることができる。

↑ (理科室での授業風景、拡大投影機や昨年度購入した電子黒板を有効に活用している)  
(2) 教員の教材研究と理科室の I C T 機器を管理するため、管理用パソコンを購入したい。

### 2. 授業の I C T 化の推進

大阪市では、今秋には教室用のパソコンが新しく入れ替えられ、平成 27 ・ 28 年度中には全教室に 60 型プロジェクターが設置される。「運営に関する計画」のまとめの年である今年、2 年間取り組んだ理科教育の I C T 化をこの機会を逃さず、全校・全教科に拡大したい。そのためには、算数のデジタル教科書を全学年に、社会科のデジタル教科書を 3 ~ 6 年に購入し、実物投影機を全教室に設置することが不可欠である。

- (1) 昨年度の全国学力・学習調査では、「算数 A」の平均正答率は全国平均を上回ることができたが、「算数 B」は下回った。子どもたちの学力は、学年によりバラつきがある現状である。今後、恒常に「算数 A」「算数 B」の平均正答率が全国平均を上回るように、今年度の研究教科を算数とし、テーマを「意欲的に課題に取り組む子どもを育てる」にした。算数科デジタル教科書を購入し、授業方法の改善に取り組み I C T 化を推進する。

(2) 「世界に通用する人材を育成」するためには、中学年から身近な地域から日本や世界に広く目を向けさせなければならない。社会科デジタル教科書を使った社会科学習は、児童に自分たちが住む大阪や日本各地の様子、外国の様子を視覚資料や統計資料でより詳しく理解させることができ、郷土愛やグローバル感覚を身につけさせることができる。また、視覚資料をより活用することで、見たことのない過去の歴史に触れ疑似的体験をすることで、温故知新の例えの通り、将来の日本のあり方や国際関係を考える土台を築くことができる。  
 ←（5年生日本地理の授業風景、デジタル教科書や実物投影機があれば視覚的に日本の領土・領海等を理解させることができる）



また、社会に目を向ける力を養うために昨年に続き、今年度も小学生新聞を購入したい。

(3) 実物投影機（書画カメラ）は、低学年教室に設置し、国語の学習でひらがなや漢字を拡大し字の形や書き順を確認したり、他の教科で教科書やノート、資料を拡大して有効に活用している。しかし、3年生以上の教室にはこの機器がなく、授業のICT化が遅れている。实物投影機は、操作が簡単でICT機器が苦手な教員でも導入しやすい。また、この機器を導入すると、自主教材の作成にかける時間を短縮でき、その時間を教材研究にあてることができる。



（3年生算数科の時計学習の授業風景、拡大投影機がないので教材を拡大コピーして使用）↑

また、本校では、インクルージブ教育を実践し、特別支援学級の児童は原学級で学習する機会が多い。实物投影機は、発達障害等が原因で読むことや聞くことから情報を得るのが苦手な児童に対しても有効で、常時、視覚的な情報を大型画面に発信することができ、理解の手助けになることが期待できる。

### 3. 自尊感情の醸成と地域連携



↑（中運動場で遊ぶ児童）

本校では、3年前から中運動場の芝生化に取り組んでいる。児童は芝生が大好きで、その上を寝転がったり走り回ったりして元気に遊んでいる。昨年度の140周年記念事業のアンケートで「南百済小学校の自慢はなんですか？」の問いに、「中運動場の芝生」と答えた児童の割合が1番多かった。

芝生の維持管理は、地域ボランティアである「グリーンクラブ」

の方々が、隔週の土曜日に管理委員会を開き、活動をしてくださっている。昨年は、グリーンクラブの献身的な活動と芝生の有効的な活用が認められ、大阪府から「おおさか芝生優秀賞」を受賞し、地域の皆さんに大変喜んでいただいた。

中運動場の芝生は、児童にとっても地域にとっても大きな「自慢（誇り）」になっている。しかし、中運動場は、雨の日と一定の養生期間以外はいつも児童に開放されているので、芝生の痛みがとても激しい。秋に冬芝のオーバーシードをしないと夏芝の根を保護することができず、翌年の成長を維持できない。冬芝の種子と目土を購入し、児童とグリーンクラブの方々が共にオーバーシードの作業を行い、児童の心に学校や地域を愛する心を育てたい。



（グリーンクラブの方々と芝生の補植を行う児童の取組み風景）↑